

所長の模型部屋（第7回）

みなさん、こんにちは。思いつきで始めたこの企画も7回目となりました。こんな自己満足のコーナーを見られる人がいるのか不安でしたが、見てくれている方がいるという情報を頂き、嬉しい限りです。たいした作品でもないのにすみませんね・・・でも、何かプラモデルを作るきっかけになってくれたらと思います。

さて、皆さんが好きなと言うか思い出のある陸上自衛隊の装備品は何ですか？
私が最も思い出のある装備品と言えはやはりコレ

74式戦車です。



私が戦車に乗りたいと思ったのは、小学生の頃にこの74式戦車の写真を見たからです。上越市に最も近くに所在する第12戦車大隊は61式戦車とM41戦車しかなく、高田駐屯地記念日に74式戦車が来てくれることはありませんでした。駐屯地のイベントで配られた絵はがきでしかその姿を見ることはなく、戦車マガジンでは「走るコンピュータ」と言われ、どんなに凄い戦車なのだろうと憧れを持っていました。そして数年後、自衛隊に入隊し、機甲科隊員として教育を受けることになり、静岡県第一機甲教育隊で初めて見た74式戦車に「ついに憧れの・・・」と感動を覚えました。しかし、その感動もつかの間、鬼教官達による地獄の教育が待っていたのでした。

今回は、私が中隊長であった第1戦車群第303中隊のドーザー戦車を作りました。

キットはタミヤで、ディテールアップにオードナンスモデルのドーザキットとエッチング、そしてカステンのキャタピラと・・・総額すげえ金額の模型となりました。



ドーザ戦車は中隊に1台配備され、応急陣地の構築や地雷原処理後の機動路確保のために使用されました。でも、一番使用したのは「除雪」でした（笑）

ドーザ戦車のフェンダーのみ泥よけ用のゴムマットが付きます。今回はプラペーパーを使用しました。この泥よけの効果は抜群で、通常の74戦車には付いていないので、わざわざ操縦手側にゴムマットを装着したり、ドーザ戦車のフェンダーごと付け替えたりしていました。この泥よけがないと操縦席に泥が飛び跳ねてきて、顔を出した運転すると顔が泥パック状態となり、又、眼球にも泥の固まりがダイレクトにヒットするのでゴーグルがないと操縦できません。ドーザの操作は操縦手が行い、陣地を掘るには経験と技が必要でした。



砲身基部の「ヒサシ」はタミヤのキットでは交戦装置が付くことから省略されていますので、自作しました。プラ版を熱であぶって鉛筆に巻き付けて基本形を作り、装着後曲がり伸びることを予想して砲身との隙間にプラ版でスペーサーを作って砲身とヒサシ裏面を接着し、浮いているように見せています。投光機基部からのステーは真鍮線でそれらしく作っています。投光機側面の取り付け用「取っ手」はモールドをくりぬき、プラ棒で作っています。この投光機、実際は結構重いんですよ。光軸（光の向き）の修正の際は取り付け基部の調整ボルトで行うのですが、難儀したのを覚えています。投光機の表面ガラス部分は遮光のため、板やシートで覆っているのですが、今回はあえて投光機使用準備状態で作成しています。まァ、自ら熱と光を出すことになるので滅多に使うことはないんですけどね・・・



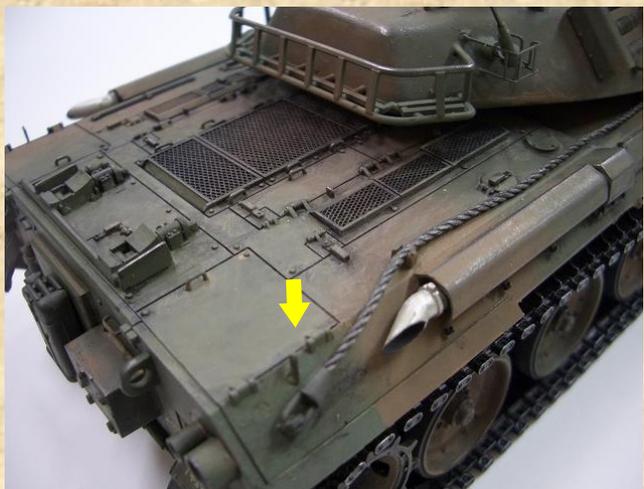
予備履帯はカステンのキャタピラを使用して、留め具はプラ版と伸ばしランナーで細工しています。色は黒です。実車ではラッカーズプレーの黒で塗っていますので、セミグロスブラックで塗るのがよいでしょう。メタリックグレーではありませんよ！第1戦車群の部隊マークはフリーハンドです。それらしく見えますかね・・・ちなみに北海道に部分だけは第71戦車連隊マークの「緑の北海道」の部分切り抜いて、それを貼り付けてホワイトで塗っています。サソリはグンゼの「キャラクターイエロー」を使用しています。



フィギュアは90式戦車の車長・砲手を使用して、頭を74式戦車の車長と冬期仕様の車長からすげ替えています。胸には無線の開閉器が付いています。重機関銃は、いつものフラットブラックを塗った上に鉛筆の芯を指で塗りつけています。

各ハッチ類の取手は真鍮線で作り替えています。また、けん引ワイヤー取り付け基部や点検ハッチ止め（→印）をプラ版で追加します。

けん引ワイヤーは90式戦車のキットに入っていたナイロン製のヒモを使用しています。排気マフラーの下に付いているのは泥はね防止用の板で、履帯が若干車体よりはみだしているため泥はねが凄いため、何処の部隊でも取り付けられています。ただ、部隊によって規格や材質は様々です。第1戦車群では鉄板にステーを溶接して、マフラーカバー周辺のボルトを活用し取り付けられていました。





砲塔のハッチには安全のため、チェーンが取り付けられています。90式戦車のマインローラーキットに入っているものを使用しました。ドーザーを使用しない際に車体に固定する車体前面中央のフック部分はキットの説明では1枚となっていますが2枚のフックではさみ、金属バーを通して固定するものです。注意して下さい。でも取り付け方が悪かったのか、一番上まで上げるように取り付けられませんでした。



キャタピラはカستنを使用しています。タイヤブラックで吹き付けた後、セミグロスブラックやグンゼの磨いて金属色になる名前は忘れましたがその「ダークアイアン」を塗って接地面を擦って金属感を出しています。このキャタピラを作るのは苦行に近いですね（笑）



標準型の74式戦車と並べてみました。ドーザが付くだけで何となく強そうに見えるのは私だけですかね。正直言ってドーザーがある分、凹凸地の走行時に泥をすくいながら走ることになるのであまり操縦したくはなかったです。



左の標準型74式戦車は交戦装置を取り付けた状態を作りました。私が幹部任官後初めて小隊長として勤務した第73戦車連隊第4中隊仕様です。砲塔周りに受光部を装着したベルトが巻き付いていて、ここにレーザーが当たって被害状況を判断するのです。タミヤさんもここまで模型化してもらいたかったです。右の写真は投光機と砲塔内をつなぐ電源ケーブルの接続状況です。本当は、もう1本細いケーブルが同じように配線されるのですが、良い材質が無かったので今回は省略しました。いずれにせよ、今回の74式戦車ドーザ装着型を完成させるまで4年かかりました。引越やら部品紛失とか色々重なったものですから・・・



今回は思い出のある戦車だけに長々と書いてしまいました。製作する際の参考にしてください。さて、次回は、

99式自走榴弾砲



です。それではまた！